ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

82

2015. 6. 12

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して－協同が息づくまちづくり－」を『基本理念』として、協同組合の「共通行動目標」の実践に取り組んでいます。

Contents

1．協同組合活動スナップ …… 1
2．阪神・淡路震災から20年／「ひょうご安全の日のつどい」に参加しました…… 2～3
3．2014年度 「協同組合研究・交流会」を開催 …… 4
4．兵庫JCC2015年度活動計画 …… 5
5．今協同組合では－各協同組合からの報告－
　●生協／JA（農協） …… 6
　●JForest（森林組合）／JF（漁協） …… 7
6．協同組合運動に生きる「森林組合とは」
　兵庫県森林組合連合会　管理課主任　青木 さやか …8

協同組合活動スナップ

地方消費者グループ・フォーラム in 滋賀に参加

生協

「消費者市民社会の実現」にむけて、「広げよう連携の輪～消費者の安全・安心を地域から～」をテーマに壁新聞による活動紹介や寸劇、分科会などが行われ、消費者問題に携わる人々、約 150 人が連携を深めました。

淡路島いちじくカレーが新発売！

JA（農協）

JA 淡路日の出が「淡路島いちじくカレー」を発売しました。牛すじ･ポーク･チキンの 3 種類で、イチジク、タマネギなど淡路島産にこだわった原材料を使用しています。

イカナゴくぎ煮教室開催！

JF（漁協）

ひょうごの春告魚、イカナゴが 2 月 26 日に解禁となり、兵庫のおさかなファンクラブ「シートクラブ」中心に、毎年、ご好評をいただいているイカナゴくぎ煮教室を連日開催しました。

木質バイオマス発電における燃料用の木材の受け入れを開始

JForest（森林組合）

2016 年 9 月に稼働予定の木質バイオマス発電所（朝来市）で、燃料となる木材（森林内で伐採した後に放置されたままの間伐材など）の受け入れを開始しました。

●編集発行
兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局
兵庫県生活協同組合連合会　TEL(078) 391－8634
兵庫県農業協同組合中央会　TEL(078) 333－5896
兵庫県漁業協同組合連合会　TEL(078) 940－8013
兵庫県森林組合連合会　TEL(078) 341－5082

阪神・淡路震災から20年／「ひょうご安全の日のつどい」に参加しました

兵庫 JCC のテント前で

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、1 月 17 日（土）、神戸市内の HAT 神戸で開催された「ひょうご安全の日のつどい」に参加しました。

この行事は、県内の 130 団体・個人で構成される「ひょうご安全の日推進県民会議」が、阪神・淡路大震災の記憶を風化させず語り継いでいくために、毎年、追悼式典やメモリアルウォークなどを行っているものです。震災から 20 年の節目にあたって、兵庫 JCC からも参加しました。

当日は、昼過ぎからあいにくの雨となりましたが、会場には多くの人が訪れました。兵庫 JCC は、JF から「海鮮汁」の炊き出し、JA グループ兵庫から「塩おにぎり」の配布を行い、500 食分を来場者に配りました。

ブースではパネルを展示したり、パンフレットを配布しながら、震災の経験と教訓を地域や世代を越えて伝えていくとともに、協同組合が地域社会で果たしている役割について、広く情報発信しました。また、JA グループ兵庫からは、震災からの復旧・復興と農業振興について書いた「JA グループ兵庫からのメッセージ」を配布しました。

来場者からは、「温かい海鮮汁とおにぎりで、震災当時のことを思い出しました」「震災の経験は今後も伝えていく必要がある」などの声をかけていただきました。

多くの人が会場を訪れました

あたたかい海鮮汁の炊き出しと塩おにぎり

協同組合の活動を広くアピール

2014年度「協同組合研究・交流会」を開催

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、3月9日（月）、神戸市内で2014年度兵庫 JCC「協同組合研究・交流会」を開催しました。

この研究・交流会は、各協同組合がお互いの事業・活動について学習・情報共有することで、今後さらに協同・連帯を強めていこうと、毎年開催しているものです。今年度はコープこうべ主催で、同組合の3つの施設を見学し、JCC組合員・役職員25人が参加しました。

最初に訪れた六甲アイランド食品工場では、パン・麺類・とうふ等を生産する様子を視察しました。「安全・安心なものを食べたい」という組合員の声にこたえるために、国内外の産地から独自基準で素材を厳選し、組合員の声を反映させながら新商品の研究・開発に取り組んでいることを学びました。

食品工場でつくられたパンをいただき休憩

食品工場を見学

集配センターを見学

次に訪れた魚崎浜要冷集配センターでは、共働き世帯やお年寄りなど、なかなか買い物に行けない組合員の生活を支えるために、約730種類の食品や生活必需品を約44万軒に宅配する様子を視察しました。

最後に訪れた商品検査センターでは、商品を安心して利用してもらうために、残留農薬検査、微生物検査、放射性物質検査、組合員からのお申出検査などさまざまな商品検査の様子を視察しました。

参加者からは、「組合員の安全・安心に関する不安を解消するために、どのような取り組みを行っているかが分かった」「組合員といっしょに商品開発を行うコープ商品は、『食べる』と『作る』がつながっている」などの声があり、協同組合の相互理解がより深まりました。

兵庫JCC2015年度活動計画

協同組合の原点についての学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	内　容	規　模	実施日
第 93 回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	世界の協同組合にたずさわる人々が心を一つにして協同組合運動の前進を誓う日として、毎年 7 月第 1 土曜日を「国際協同組合デー」と定めている。これに先駆け、兵庫県記念大会を開催する。 テーマ「協同の力で未来を拓く・協同組合がよりよい社会を築きます」 講演：「地域福祉と協同組合の役割」 講師：公益財団法人さわやか福祉財団会長・弁護士 堀田　力 氏	約350人	7月3日
「協同組合 虹の仲間づくりセミナー」	2013 年から取組んだ「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を発展させたものとして、「協同組合は地域･社会に貢献できるか」をテーマに、生産から消費をつなぐ協同組合間協同の可能性についてセミナーを開催し、共に考える。 ※一環として、兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる「虹の仲間で森づくり」にも参加する。	約40人	①9/18～19 ②11/28～29 ③1/29
協同組合研究・交流会	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深めるため、農協、漁協、森林組合、生協の各協同組合が、互いの事業と活動を学習・共有化し、今後の更なる協同・連携を促進する。	未定	未定
PHD運動への協力	兵庫 JCC として、（公財）PHD 協会による PHD 運動への協力を行う。 ①各協同組合で PHD 運動を紹介 ② PHD 会員としての協力　会費年額５万円 ③研修生の受け入れ		

PHD の団体概要

【設立の経緯】

1962 年からネパールを中心に約 20 年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して 1981 年 6 月に設立。

【組織の目的】

1．アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。
2．日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和（Peace）と健康（Health）を担う人材を育成（Human　Development）し、「共に生きる」社会をめざすこと。

今 協同組合では　―各協同組合からの報告

生協から

「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催

兵庫県生協連は1月10日(土)、兵庫県民会館にて10回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。兵庫県から4名の方々をお迎えし、会員生協の理事長・理事・監事をはじめ44名の方々にご参加いただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

新春トップセミナーでは、兵庫県企画県民部県民生活局長 柳瀬厚子氏よりご挨拶をいただき、その後、公益財団法人消費者教育支援センター総括主任研究員の柿野成美氏を講師に迎え「“消費者市民社会”の実現に向けて～生活協同組合への期待について」と題して、消費者教育推進法の基本理念や消費者教育体系、不当表示に惑わされない消費者としてのあり方などについてご講演いただきました。

賀詞交換会にて挨拶される
金澤和夫 兵庫県副知事

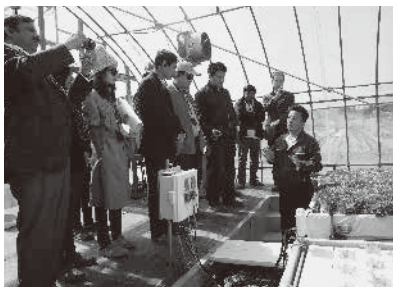
発展途上国で作られた作物や製品を買い支えていくことで生産者の持続的な生活向上を支える仕組みの「フェアトレード」。大学生や若い世代が企業などに呼び掛け、その認知度を高めていく活動がすすめられています。柿野氏は「消費者の行動が社会を変える」「消費生活に関する知識だけではなく、行動に移せる実践的能力を身につけることが大切です」と結ばれ、会場では熱心に聴き入る参加者の姿が見られました。

賀詞交換会には兵庫県の消費者行政のご担当の方々にもご参加いただき、ご来賓を代表して兵庫県副知事の金澤和夫様のご挨拶で賑やかに会がスタート。柿野講師をはじめ、日頃からお世話になっている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞交換を通じて交流を深めました。

講演される 柿野 成美 氏

JA(農協)から

アジア諸国の農協リーダー育成のために／ICA 研修生を受け入れ


JA 兵庫南出資法人（株）ふぁーみん
サポート東はりまで水耕栽培施設を
視察する研修生

兵庫県内のJAおよび中央会は３月24日から27日まで、アジア６カ国からの研修生を受け入れ、研修を行いました。

この研修は、(一財)アジア農協振興機関(IDACA)が国際協同組合同盟(ICA)アジア・太平洋地域事務局と協力し、アジアの開発途上国における農協や農家グループの活性化を担うリーダーを育成するためのもので、ブータン、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ネパール、ベトナムから10人が参加しました。

24日は、JA兵庫中央会で、兵庫県の農業とJAや、本県JAグループの役職員教育などについて研修しました。参加者からは、役職員研修の費用や政府からの助成の有無等について質問がありました。

また、農業現地研修として、25日はJA淡路日の出管内で野菜・花きの農家を、26日はJA兵庫南管内でJA出資法人と６次産業化に取り組む女性グループを視察しました。

JA 淡路日の出の石田正組合長（左）へ
感謝の言葉を述べるベトナムの
ディン ホン タイ氏

JForest（森林組合）から

バイオマス発電の燃料用木材の受け入れを開始

ストックヤードに運ばれた燃料用の木材

兵庫県森連は、朝来市生野町の工業団地内で2016年9月に稼働を予定している木質バイオマス発電用の燃料となる木材の受け入れを開始しました。

バイオマス発電事業は、森林内で伐採した後に放置されたままの間伐材など、未利用材の活用を目指し、兵庫県森連・兵庫みどり公社・兵庫県・朝来市・関西電力グループの5者で取り組んでいる官民協働事業で、兵庫県森連ではチップの製造を担当しています。

使用される木材は、県内各地の森林組合などが加盟する「兵庫県be（バイオマスエネルギー）材等供給協議会」より供給され、運び込まれた丸太は2016年7月に敷地内で稼働する工場でチップに加工し、発電に使用されます。

発電の規模は一般家庭約1万世帯分に相当する5千キロワットで、年間約6万2500トンの木材やチップを受け入れる予定です。

JF（漁協）から

～満員御礼！ SEAT － CLUB のイカナゴくぎ煮教室～

獲れたての新鮮なイカナゴ（新仔）

JF兵庫漁連のひょうごのおさかなファンクラブ「SEAT-CLUB（シートクラブ）」は、3月2日（月）から3月17日（火）まで、イカナゴのくぎ煮教室を開催しました。

この教室は毎年、開催予定が発表されると同時に予約の電話が鳴りひびく超人気教室で、今年も予約開始後すぐに全日程が満席となりました。ご参加いただいた方からは、「以前失敗してからは買うばかりだったが、教室を受講して照りのあるやわらかいくぎ煮を作ることができた」などという声を多数いただきました。県内の小中学校でも、家庭科の授業の一環として、兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会とSEAT－CLUBが希望された学校に講師を派遣し、イカナゴくぎ煮教室を開催しています。

コープこうべ組合員の方の産地見学

また、今年で２回目となる「イカナゴのくぎ煮コンテスト」を、日本郵便株式会社近畿支社との共催により開催しました。

そのほか、コープこうべ組合員の方に淡路市のJF津名におこしいただき、イカナゴの水揚げ、競りの見学と、獲れたてのイカナゴを使った料理教室を体験していただきました。簡単で失敗しないくぎ煮の炊き方や、くぎ煮以外のイカナゴのアレンジ料理を召し上がっていただき、参加された皆様からは「美味しい」「こんなに簡単に作れるとは」といった声をいただきました。

小学校でのイカナゴくぎ煮教室

このように、この時期にしか味わえない旬を楽しんでいただけるのが、地元の食材を食べることの楽しみの一つです。SEAT-CLUBはこのような活動を通じて、たくさんの方に兵庫の魚のおいしさ・楽しさを知っていただき、伝統的な魚食文化が見直され継承されていくよう、これからも努力してまいります。

協同組合運動に生きる

「森林組合とは」

兵庫県森林組合連合会　管理課主任　**青木 さやか**

私が兵庫県森林組合連合会で働き始めたのは2008年で、管理課に配属されました。当会の管理課は、庶務・会計経理・会員への指導などが主な担当ですが、私はそれまで経理関係を全くしたことがなく、伝票の書き方って？　試算表って何？と今思えば恥ずかしいのですが、当時は分からないことの連続でした。

また、ちょうど働き始めた頃に、森林カーボン・オフセット事業を行うこととなり、その担当もしています。この事業では森林が吸収している二酸化炭素量を算定するための現地調査が必要で、担当になってから頻繁に現場へ行くようになりました。私は学生時代に山の調査はしたことはありましたが、調査の仕方など違うものが多くあり、担当なのに先輩に教えてもらいながら、ということがほとんどだったように思います。

また、調査で山に行くと、現場で働いている方と接することもあります。パッと見て怖そうな方が多く、話しかけにくいと思って尻込みしていたら、先に声をかけてきてくれたり、思い切って質問をしてみたら丁寧に教えてくれたりと、一通りの形ができるまで色々な人に教えてもらい、支えてもらって今があるなぁと感じています。

JCC事務局は昨年からの担当ですが、他の協同組合の話を聞ける良い機会となっています。その中で森林組合をあまり知らない方もおられたのでこの場を借りて紹介したいと思います。

森林組合は1907年に森林法の改正により制度化されました。日清・日露戦争により木材需要が高まったことにより、森林の保全と造成を同時に達成するための国の施策の受け皿として、概ね集落単位で設立されました。任意設立・強制加入制で、目的別に造林・施業・土工・保護の4種の組合がありました。

その後、1939年には戦時下における林業の統制組織とするために、国による強制設立が法的に規定され、4種の組合の区別をなくし市町村を単位とした全国的な組織化が進みました。この当時の森林組合は国の直接的介入による林産物生産を行う機関として機能する一方で、経営基盤の拡大、出資制による経済事業の導入、系統組織の整備など経済団体的な性格も強化されました。

戦後、森林組合制度の検討により、1951年に森林法が改正され、任意設立・加入脱退の自由、「森林所有者の経済的社会的地位の向上を図る」などの協同組合的性格が初めて規定され、1978年には森林組合法の制定により単独立法化されます。

現在の森林組合法の目的には、「森林所有者の協同組織の発達を促進することにより、森林所有者の経済的社会的地位の向上並びに森林の保続培養・森林生産力の増進を図り、もって国民経済の発展に資すること」とあり、前者は協同組合的目的、後者は私有とはいえ公共財としての性格を持つ森林の維持という公的目的を持っていることが特徴となっています。

森林は様々な機能を有していますが、それを発揮するためには人の手による適切な整備が必要となります。森林整備は多くの労力、長い年月が必要となってきますが、県土の保全や安全な生活環境を創出するために兵庫県森林組合連合会の職員として頑張っていきたいと思っています。